

地方公共団体 福岡県みやま市

所在地 福岡県みやま市瀬高町小川5番地

地域循環共生圏を
活用して目指す地
域の姿

地域で創る、選ばれる環境田園都市

地域の現状・課題

【現状】みやま市は、東部に小牧山、西部に有明海およびそれを臨む干拓地、そして東部から西部にかけて一級河川の矢部川やその支流が流れており、それらを中心に広大な田園地帯が広がっています。この海と山と肥沃な大地を有するみやま市は、その豊かな自然を活かした農業が基幹産業のまちです。第2次総合計画では、「人と自然が共に育み、つながり、成長し続けるまち」を掲げており、農業が基幹産業である特色を活かし、農産物直売所の整備や、市内の家庭から出る生ごみ・し尿等を肥料化し、農地に還元するバイオマスセンターを建設しました。加えて、恵まれた日照環境の活用し、太陽光発電による電力小売事業の実施等、域内経済循環を推進する取り組みをしています。さらに昨年、人と動物の健康及び自然の健全性は、密接に関連し合う一体のものとし、「健康は一つ」として守り継承していくワンヘルスの理念に基づいた「ワンヘルス推進宣言」をしています。本宣言と連携し、これまで表明した資源循環型社会の目指す「みやま市資源循環のまち宣言」や、脱炭素社会を目指す「ゼロカーボンシティみやま」、「第2次地球温暖化対策実行計画」の取組を加速化させていきます。

【課題】全国的な人口減少や地域経済の縮小を背景に、農業者の後継者不足と地域経済循環率の低さを解消することが成長し続けるまちの実現への課題と考えます。特に昨今の原油価格の高騰は、農業に限らず製造業や暮らしにおいても、重油代やガソリン代、電気代の値上がりという形で市民の生活に影響を与えており、その値上がりしたエネルギー支出は地域資金の域外流出に直結するため、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換をなんとしても実現したいと考えます。

地域が持つ資源

- ・基幹産業である農業に関するヒト・モノ、そして経済効果
- ・太陽光発電効率の良い土地と日照率・農産物直売所「道の駅みやま」
- ・地域新電力会社「みやまスマートエネルギー(株)」・太陽光発電事業者「(株)みやまエネルギー開発機構」
- ・生ごみやし尿等を肥料や電力に再資源化するバイオマスセンター

取組内容

暮らし、農業のエネルギーシフトによる域内循環の仕組み

地域循環共生圏を
実践することで想定
される効果(変化)

(環境) 恵まれた日照環境と未利用資源をフル活用し、区域でのCO2削減をしたいと考えます。また農業機器から排出される排気ガスをゼロにし、大気汚染の防止、農作業者の労働環境の改善をしたい。

(経済) 域内の暮らしや仕事に係るあらゆる光熱費をゼロにしたいと考えます。そして光熱費はかかるものという常識を崩すと共に、光熱費として地域資金の域外流出を削減したいと考えます。

(社会) エネルギーの内製化を実現し、市民がエネルギーは買う物から作るものに意識転換をします。それにより地域資金の域外流出を防ぎ、留めた資金を域内で投資的に使い地域を創る。それをきっかけに仕事生まれ、雇用生まれ、人口が増える、住んだ人がここなら生きることに心配がいらぬと思える社会を創ります。またZEH住宅、EVIは災害時の緊急電源となるため災害に強いまちを創ります。

